



各 位

NPO放送批評懇談会（担当：中島／福島）

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

## ＜速報＞第 51 回ギャラクシー賞入賞作品決定

平素より当会にはご理解ご支援を賜り、ありがたく御礼申し上げます。

テレビ、ラジオの番組、関係者に贈る賞として 51 年の歴史を誇る「ギャラクシー賞」の、今年度の入賞作品が決定しました。本日 5 月 1 日、発表いたします。

テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の入賞作品は別紙一覧のとおりです。

各部門とも、この入賞作品の中から、大賞、優秀賞、選奨が選ばれ、6 月 4 日に開催する贈賞式で発表、表彰いたします。

志賀信夫賞、テレビ部門個人賞、ラジオ部門DJパーソナリティ賞は以下の通り確定いたしました。ぜひ記事にお取り上げいただくとともに、6 月 4 日の贈賞式をご取材いただき、各部門の受賞作品を報道いただくようお願い申し上げます。

### ■ 志賀信夫賞

**石井ふく子** 演出家・プロデューサー

### ■ 個人賞

**三浦春馬** 「ラスト♡シンデレラ」（フジテレビ）、「僕のいた時間」（フジテレビ）の演技

### ■ DJパーソナリティ賞

**西向幸三** 「ゴールデンアワー」（エフエム沖縄）パーソナリティとして

### ＜贈賞式日程＞

2014年6月4日（水曜日）贈賞式 16:30～18:30

5月22日（木曜日）午後3時、記者クラブにて、第51回ギャラクシー賞のさらに詳しい内容およびマイベストTV賞発表の記者会見を予定しています。ぜひ、ご出席ください。



## ギャラクシー賞の概要

### ◆歴史および概要◆

1963年、民放草創期のこの時期に、テレビとラジオの可能性、影響力に着目し、その発展には必ず“批評”の力が必要であると考えた評論家、研究者、ジャーナリスト、作家らの有志によって創設された放送批評懇談会。ギャラクシー賞は、志ある番組を掘り起こし、制作者たちの番組作りへの情熱に光を当てて顕彰することで現場を鼓舞し、番組の向上・発展を促すことを目的に、会の発足と同時に誕生した。民間の自主的意思を基盤として創設された放送賞の第一号である。表彰は1年単位で、今年で第51回（2013年度）を迎えた。

「ギャラクシー」とは、天の川、銀河という訳のほか、佳人・才子の華やかな群れという意味を持つ。放送界にきらめく才能を表すのにふさわしいものとして、放送批評懇談会設立の核となった渋谷秀雄、内村直也、梅田晴夫そして初代のトロフィーをデザインしたガラス作家・岩田糸子らによって賞の名に選ばれた。

ギャラクシー賞は昨年第50回を記念してトロフィーを一新。松永真デザインの「バードマン」が新しい賞のシンボルとなった。

### ◆賞の特徴◆

ギャラクシー賞設立時には、すでいくつかの放送賞が存在したが、その多くは「コンクール用に盛装を凝らしたものを対象にした記念行事」（故・白井隆二）だった。白井らは、テレビやラジオが日常に根ざした媒体であることを強く意識し、年間を通じてテレビを視聴しラジオを聴いて番組を批評することを賞の大前提に掲げた。その志は現在まで貫かれ、放送批評懇談会正会員の自主的な視聴活動が賞の土台となっている。

テレビ部門では、審査を担当する選奨委員により月評会（毎月）が開催され、月間賞が選出されている。ラジオ部門も月例会を持ち番組を論じ合う。これらの内容は毎月、月刊誌「GALAC／ぎやらく」に掲載される。こうした活動により、“放送の現在に向き合う賞”として独自の地歩を固めている。

### ◆賞の内容◆

テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の4部門制。テレビ部門は月間賞のほか、年2回参加作品募集を行い、両者をあわせた中から年間賞を選出。ラジオ、CM、報道活動は年2回参加作品を募集し、それに審査員の推薦作品を加えて選考し、年間賞を選出。

受賞枠は、＜テレビ部門＞大賞1、優秀賞3、選奨10、特別賞1、個人賞1、＜ラジオ部門＞大賞1、優秀賞3、選奨4、個人賞またはDJパーソナリティ賞1、＜CM部門＞大賞1、優秀賞2、選奨10、＜報道活動部門＞大賞1、優秀賞2、選奨3。ほか、周年には記念賞を設ける場合がある。

また、放送批評懇談会がNPOとなったことを記念して、第44回（2006年度）から視聴者が選考に参加するマイベストTV賞を新設した。



◆審査と表彰◆

時代性に優れ、ジャーナリスティックな感覚を持ちえていること、かつ作品として普遍的な力量を備えていることの二点が選考の柱。

放送批評懇談会正会員によって組織する選奨事業委員会が審査を担当。審査は、年 2 回(上期・下期)、エントリー作品を受け付けて行う。上期・下期で選出された作品を対象に年間の最終選考がおこなわれ、各賞を決定する。

表彰式は、毎年 6 月初旬に行われる。受賞者には、トロフィーと表彰状が授与される。

「志賀信夫賞」について

■会の設立から発展に貢献のあった日本の放送批評のパイオニア、志賀信夫（2012 年他界）の長年にわたる放送界への功績を記念して、2009 年度に設立した。

■本賞は、これまでのギャラクシー賞が受賞対象とする番組制作という枠にとどまらず、広く放送の発展に貢献する大きな業績を成し遂げた個人を表彰するものである。

したがって番組制作だけでなく、放送局やプロダクションの経営、番組制作の支援や放送周辺の分野、放送を中心とするメディアに関わる研究や批評活動など、幅広い分野で功績のあった方々を顕彰し、放送の更なる発展に役立てる意図を持つ。

志賀信夫 しが・のぶお／1929（昭和 4）～2012（平成 24）。放送評論家。福島県生まれ。53 年早稲田大学大学院文学研究科修了。57 年同大学講師。60 年放送評論家として独立。63 年放送批評懇談会の設立に参加、理事、78 年同理事長。79 年共立女子大学講師。81 年メディアワークショップ代表理事。85 年ビデオ映像文化振興財団理事。90 年多摩大学講師。NAB（全米放送事業者協会）東京セッション実行委員会会長、文化庁芸術祭審査委員、NHK 演出審議委員等を務める。「デジタル時代のパイオニア」（源流社）、「BS/CS 衛星放送新時代」（電波新聞社）、「映像の先駆者 125 人の肖像」（NHK 出版）など著書多数。自薦の優れた番組の評論を記録し、関係者の証言を集めるなどした「年間テレビベスト作品」を 30 年にわたり出版。2003 年には、テレビ評論の分野で初めて芸術選奨を受賞。



# NPO/特定非営利活動法人 放送批評懇談会

ASSOCIATION OF BROADCAST CRITICS

■創立 NPO放送批評懇談会=2005年5月2日(任意団体放送批評懇談会=1963年4月)

■会勢 正会員 194名 維持会員 139社

## ■役員

理事長=音 好宏 専務理事=橋本 隆(総務担当)

常務理事=上滝徹也、小田桐 誠、藤田真文

監事=隈部紀生、鈴木典之

理事=飯田みか(出版編集委員長)、藤久ミネ(選奨事業委員長)、碓井広義(企画事業委員長)、丹羽美之(選奨事業委員会テレビ部門委員長)、桜井聖子(選奨事業委員会ラジオ部門委員長)、五井千鶴子(選奨事業委員会CM部門委員長)、鈴木嘉一(選奨事業委員会報道活動部門委員長)、滝野俊一(マイベストTV賞プロジェクトリーダー)、石井 彰、市村 元、入江たのし、川喜田尚、小林 毅、坂本衛、嶋田親一、田中早苗、中町綾子、稗田政憲、中島好登(事務局長)

## ■目的および事業

広く一般市民を対象として、視聴者と放送局・放送制作者が手を携え、放送に関する公平・中立な批評活動等を行い、豊かで優れた番組の創造および放送文化の振興を図り、市民が正確で信頼できる情報を享受し、市民の生活文化の発展に寄与することを目的とする。

(1) 放送に関する書籍や雑誌の出版・編集事業 (2) 優れた放送に関する企画や作品の選奨・表彰事業 (3) 放送に関するセミナーやイベントの企画・開催事業 (4) 放送に関する調査・研究事業 (5) 放送に関する団体や機関への提言事業 (6) 視聴者、放送関係者との交流事業 (7) 放送に関する目的を同じくする国内外の団体等との連携事業 (8) その他、目的を達成するために必要な事業

## ■主な活動

**放送の専門誌 [GALAC/ぎやらく] の編集・発行**

放送批評の育成・振興を目的に、放送や番組の問題を様々な角度から取りあげ、研究するテレビ・ラジオの専門誌。番組批評のパイオニア。1967年創刊の「放送批評」誌をリニューアルして、97年5月創刊。

**日本を代表する番組賞 [ギャラクシー賞] の選定・表彰**

本会創立と同時に1963年に設立された番組賞。審査には本会正会員自身があたり、月間で定例会を持つなど日常性を重んじた丹念な選考作業が特徴。毎年4月から翌3月が対象。テレビ、ラジオ、CM、報道活動の4部門制。それぞれ大賞、優秀賞、選奨、特別賞などを選出。個人賞、DJパーソナリティ賞は個人に贈られる。

**視聴者参加型 [ギャラクシー賞マイベストTV賞] の運営・表彰**

本会がNPOになったのを記念して誕生した、視聴者が視聴者の手でベスト番組を選ぶテレビ番組賞。毎月投票でノミネート番組を選び、年間一本のグランプリを選出。

**[放懇シンポジウム/放懇セミナー] の企画・開催**

その時々々の放送をめぐる関心事をテーマに、当事者、専門家、研究者とともに放送を考える場を提供し、放送界に積極的な提案、提言を行なう。